

研究テーマ	表現と鑑賞の活動を通じた、造形的な見方・考え方を高める指導の工夫
	一小学校第2年学年「形の『かくれんぼ』ふしぎな形が大変身！」の実践を通して 行方市立麻生東学校 教諭

I 研究テーマについて

小学校学習指導要領解説图画工作編(平成29年)(以下解説)では、鑑賞の内容として、「児童が自分の感覚や体験などを基に、自分たちの作品や親しみのある美術作品などを見たり、自分の見方や感じ方を深めたりする鑑賞活動を通して、『思考力・判断力・表現力等』の育成を目指すものである」と示されている。また、鑑賞を行うことで、「形や色、作品などのよさや美しさを能動的に感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める」と述べられている。よって、鑑賞を通して、自分では気づかなかつた視点に気付くことができる。

さらに、解説において、「ア(表現)とイ(鑑賞)は相互に関連して働き合うものとして捉え、鑑賞の活動や、作品などの鑑賞の対象を、幅広く考える必要がある」ということから、鑑賞を通して新しく気付いたことは、自身の作品製作に活かすことができ、表現技能を高めることができると考える。また、私は、子供たちに鑑賞を通して表現力を高めさせたいと考えている。

これらのことから、表現と鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を高めたいと考え、本研究テーマを設定した。

II 研究の実際

1 題材名 形の「かくれんぼ」—ふしぎな形が大変身！—

2 題材の目標

- 不定形から思いついたことを発想したり表現したりして楽しもうとする。
(造形への関心・意欲・態度)
- 不定形に切り取った画用紙から表現したいものを思いつくことができる。(発想や構想の能力)
- 不定形に、かきたいものの形や色を工夫してかき足すことができる。(創造的な技能)
- 自分や友だちの発想のおもしろさや作品のよさを感じ取ることができる。(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 児童の実態

「图画工作に関する実態調査」 (2年2組 24名 平成30年12月17日調査)

1 図工は好きですか。	はい 17名	まあまあ好き 6名	あまり好きではない 1名	いいえ 0名
2 形から何か創造することは好きですか。	はい 16名	まあまあ好き 3名	あまり好きではない 4名	いいえ 1名
3 形から何か創造することは得意ですか。	はい 6名	まあまあ得意 11名	あまり得意ではない 4名	いいえ 3名
4 友達に作品を説明することはできますか。	はい 12名	まあまあできる 6名	あまりできない 6名	いいえ 0名
5 友達の作品を鑑賞することは好きですか。	はい 16名	まあまあ好き 7名	あまり好きではない 1名	いいえ 0名

本学級の児童は、質問1から图画工作が「好き」と答えた児童が17名と多く、普段の授業の様子からも意欲的に取り組んでいる様子が見られる。質問2では、形から何か創造することは好きと答える児童は16名と多い。しかし、質問3で何か創造することは得意と感じているという児童は半数を超えており、得意ではないと感じていると答える児童は7名おり、創造をふくらませて製作をすることが苦手な児童がいることが分かった。質問4では、「友達に作品を説明することができる」と答えた児童は半数を超えており、一方で、説明することが苦手な児童もいることが分かった。質問5では、友達の作品を鑑賞することが好きな児童は23名と多く、鑑賞に対しては意欲的であることが分かった。

このことから、表現と鑑賞の活動を通して、新たな視点に気付き、自分の製作に取り入れていく造形的な見方・考え方を高めることが必要であると考える。

(2) 題材観

本題材は、画用紙を複数のパツに切り取った不定形から思いついたものをかき加え、かいたものを再びパズルのように組み合わせて鑑賞をする。児童に不定形のピースをいろいろな方向から鑑賞させ、その形が何に見えるのかを話し合せながら製作をすすめていく。偶然にできあがった紙の形を、縦や横、斜めから鑑賞することで、柔軟に視覚的視点を変えられる感覚を育てていきたい。切り分けた形をパズルのように組み合わせることによって、「もとの形から新しい形を見つけてかく工夫をする。」ことを通して、形や色、方法や材料を工夫する力を培う。また、表現及び鑑賞の共通事項との関連において、不定形からイメージを広げ、思いつくものを表現する楽しさを味わうことができる題材である。

(3) 指導観

本学級の児童は、友達の作品を鑑賞することは好きであるが、想像してイメージをふくらませることは苦手である。そこで、イメージをふくらませるために、不定形を友達と鑑賞をして話し合いを行って、作品製作をすすめていく。友達と話し合いを通して、自分では見つけることができなかつた形の見立てを知ることができると考える。また、不定形を何かに見立てることができない児童のために、形の上下を変えて「何にみえるかな」と問い合わせたり、ラミネートシートで作成したヒントシートを使わせたりすることで見立てやすいようにする。このような活動を通して、児童の造形的な見方・考え方を高めていきたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
○ 不定形から思いついたものをかいて楽しんでいる。	○ 不定形に切り取った画用紙から表現したいものを思いついている。	○ 不定形に、かきたいものの形や色を工夫してかき足している。	○ 自分や友だちの発想のおもしろさや作品のよさを感じ取っている。

5 指導と評価の計画（3時間扱い）

次	時	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
一	1	・作例を参考に、どのように紙を切るか考える。 ・さまざまな線を組み合わせて、紙が4～6くらいの形に分かれるように切る。	【関】作り方を理解し、自分の力でつくろうとする意欲をもっている。【観察・ワークシート】 【技】選んだ線をはさみで切って、画用紙を切り分けることができる。【観察・作品】
	2	・切り取った形を縦や横、斜めに見て、想像を膨らませて何の形に見えるのかを友達と形を鑑賞しながら考える。 ・形を見立てながら、切り取った形に絵をかく。	【発】切り取った形を、想像をふくらませながら色をぬって変身させることができる。 【観察・作品】
二	1	・パズルあそびや形の交換をして鑑賞し合い、お互いの良いところを伝え合う。	【鑑】自分の作品の気に入っているところや、友達の作品の良いところを伝え合うことができる。 【観察・ワークシート】

6 指導の実際

(1) 本单元の展開

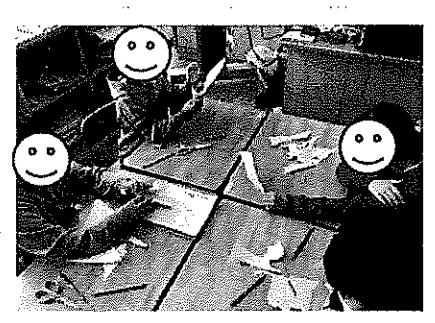
時	学習活動・内容	指導の手立て
1	<p>1 本時の活動と目標を知る。</p> <p>2 画用紙を4~6つに切り分ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな線があるのか意見を出す。 →くねくね、ギザギザ、くるくる…など ・一筆書きを意識して、画用紙全体に線を引く。 ・切りたいと思う線を選び、赤えんぴつで線を引き4~6つにはさみで切り分ける。 ・切り分けた形の裏面に、名前と形の番号を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が事前に作成した作例を提示して、本時の活動をつかみやすくして意欲を高める。 ・児童にどんな線があるのか聞いて、すべて直線にならないよう、それらの線を組み合わせながら、一筆書きを意識して線を引けるようにする。 ・实物投影機で教師の手元を映して、児童にどのように製作を行っていくのか説明をする。 ・切り分ける線を引くときに、大きさが小さくなりすぎないように注意する。 ・選んだ線を「ギザギザ」「くねくね」と声に出しながら、さまざまな切り口の不定形が作れるようにする。 ・たくさん線が書かれている側を裏面にする。 ・切り取った形の裏表と友達のものと混ざらないようにするために、裏面に名前を書くようにする。 <p>評 選んだ線をはさみで切って画用紙をきり分けることができる。 【創造的な技能】 (観察・作品)</p>
2	<p>1 切り分けたピースの形を友達と鑑賞し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4人グループで、それぞれ自分のピースの形がどんなものに見えるのか鑑賞する。 ・思いついた意見は付箋に書いて、友達に渡す。 「犬に見えるよ！」 「この長いところが鳥のくちばしみたいだね。」 <p>2 ピースに思いついた絵を書き入れて切り分けた形を変身させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クーピーや色鉛筆を使って形に色を塗っていく。 ・形の横にアドバイスカードを置いて、友達からアドバイスをもらえるようにする。 「とがっているところを横にしたら、人の顔に見えてきたよ。」「2つのギザギザのところが、ねこの耳みたいだよ。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と不定形を鑑賞し、話し合うことで、不定形がどんなものに見えてくるのか想像しやすくなる。 ・想像して見立てることが苦手な児童には、ヒントシートを使い、想像するしやすくなる。 ・ヒントシートには、○・△・□といった形を書き込んでおくが、児童が好きな形などを書き込めるようにしておく。 ・中間鑑賞会で、教室を自由に歩き回って交流をして、自分の作品の参考にしたい良いところを見つけられるようにする。 ・水色の付箋を持ち歩き、グループ以外の友達にアドバイスしたいことが伝えられるようにする。 <p>評 切り取った形を、想像をふくらませながら色をぬって変身させることができる。 【発想の能力】 (観察・作品)</p>

3	<p>1 色をぬって変身させた形を鑑賞する。 「この形がこう変身するなんてびっくり！」 「かわいく変身できているね。」</p> <p>2 活動の振り返りをする。 「友達からアドバイスをもらって、ちがうものが見えて面白かった。」「いろいろな形を変身させることができておもしろかった。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> できた形をパズルあそびや形の交換をして遊ぶことで、形の面白さに気付くようにしたい。 遊んでから、よかったですや面白かったことを黄緑の付箋に書いて友達に伝えられるようにする。 <p>評 自分の作品の気に入っているところや、友達の作品の良いところを伝え合うことができる。</p> <p>【鑑賞の能力】 (ワークシート・付箋紙)</p>

7 分析と考察

(1) 児童の様子から

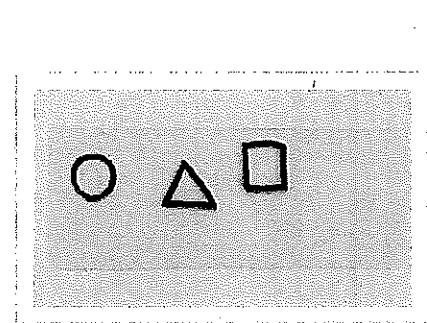
① 切り分けた形を鑑賞する



資料 1 グループでの話し合い



資料 2 中間鑑賞会での様子



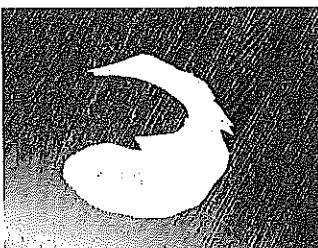
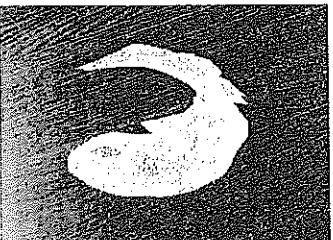
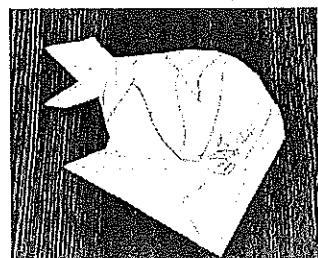
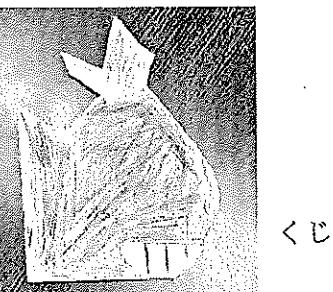
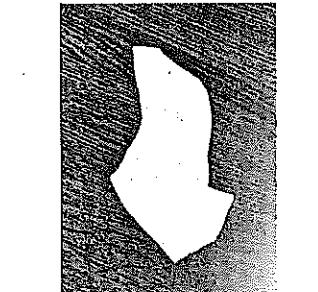
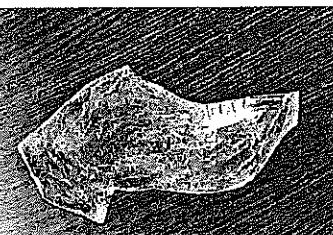
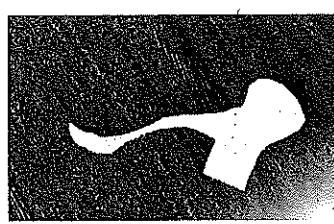
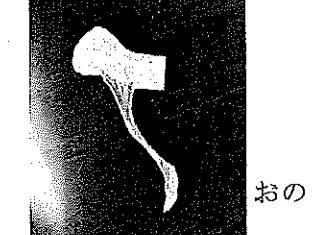
資料 3 ヒントシート

資料 1・2 より、児童は、切り分けた形をそれぞれいろいろな角度から鑑賞している様子が見られた。上下を逆にしてみたり、ななめにしてみたりと形から想像をふくらませていた。自分では形を見立てることができない児童は、グループの友達に「これは何に見えるのかな？」と聞いて、友達からいろいろなアイデアをもらっていた。また、発想が苦手な児童のために資料3のようなヒントシートを活用させた。シートに目や形を書いて使うように伝えたところ、不定形のいろいろなところにシートを当てて「見えた！見えた！分かった！」と見立てることができていた。

② 形を変身させる

(※変身前の写真は、裏面なので表面と同じ形の向きになるように反転させている。)

変身前	出したアイデア	変身後
	<ul style="list-style-type: none"> てっぽうに見えるよ。 細長いところが木のえだに見えるよ。 頭の形がねこに見えるね。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒントシートをつかつたら、魚に見えてきた！ 	 魚
	<ul style="list-style-type: none"> ・とがっているところが魚の口に見えるね。 ・くじらに見えてきたよ！ 	 くじら
	<ul style="list-style-type: none"> ・先が細くなっているところを上に向けるとなんかの動物に見えるよ。 ・犬の横顔に見えるよ。 ・お父さんのくつに見えるね。 	 くつ
	<ul style="list-style-type: none"> ・細長いところが、ジョウロみたいだね。 ・おのにしたら強そう！ 	 おの

グループで友達と話し合って出たアイデアを基に、それぞれ形を変身させている様子が見られた。また、発想することが苦手な児童はヒントシートを使って変身させることができた。

③ 変身させた形を鑑賞する



かくしてさしきり
てのまのまほ
かわいいですね。

さかなの口かわ
しいですね。

はばかさやけいか
いですね。
よソ

児童は付箋を持ち、クラスの友達の作品を鑑賞した。自由に歩き回り、作品をパズルのように組み合わせて鑑賞したり、自分の作品と比べて鑑賞したりしている様子が見られた。友達の作品の「良いところ」や「おもしろいところ」を見つけて、付箋に感想を書いて伝え合うことができていた。

(2)児童の振り返りから

ありかえり たまごからひつじまで變(か)へたであります。里田は くわんきゅうもくうつないでござなつてます。	ありかえり いろんな形(かたち)ができておもしろが たであります。みんなそれぞれが うかびです。
いろいろなアドバイスがちらほらあります。	今日はくは、升(のぼり)をへて人(ひと)を思(おも)ふ ことをへました。せめて人に、よくある人 間(じんげん)とおもいました。

児童の振り返りから、「(不定形を)変身させることは難しかった」という内容のものが多くみられた。しかし、友達と鑑賞して話し合ってアイデアをもらいながら製作をしたことが楽しかったという内容のものが多くあり、楽しみながら製作を行っていたと言える。また、鑑賞を重点的に行つたことで、児童は形を鑑賞するよさや、創造をふくらませて変身させたことのよさや楽しさに気付くことができたといえる。

III 研究の成果と課題

「形のかくれんぼ」事後調査

(2年2組 24名 平成31年2月22日調査)

1 「形のかくれんぼ」の学習は楽しかったですか。
はい 12名 まあまあ好き 9名 あまり楽しくなかった 1名 いいえ 2名
2 いろいろな形をみて、何を作ろうかと想像することができました。
はい 14名 まあまあできた 8名 あまりできなかつた 0名 いいえ 2名
3 いろいろな形を見て、形を変身させることができましたか。
はい 8名 まあまあできる 9名 あまりできなかつた 4名 いいえ 3名
4 自分の作品を友達に見せて、説明をすることができましたか。
はい 8名 まあまあできた 12名 あまりできなかつた 3名 いいえ 1名
5 友達の形や作品を、形に注目して鑑賞することができましたか。
はい 13名 まあまあできた 7名 あまりできなかつた 3名 いいえ 1名

1 成果

- 友達と形を鑑賞することによって様々な形を変身させるヒントにつながった児童がたくさん見られた。
- 目などを書き込めるヒントシートを用意したことで、見立てることが難しい児童も自分で形を見立てて変身させることができた。
- 作った形を交換して比べたり、パズルのように遊んでみたりすることによって形の「おもしろさ」や変身させた形の「よさ」に気付くことができた。

以上のことから、友達と鑑賞し合って作品を製作することによって、造形的な見方・考え方を高めて、表現技能を高めさせることができた。

2 課題

- 複雑な形に切り分けるため、切り分ける作業に時間がかかってしまったことから、カッターナイフなど使用的道具の選択や切り分ける個数を児童の実態に合わせて設定するなどの工夫をしていきたい。
- 鑑賞において、鑑賞する時のポイントを児童の考えから見出せるようにするなど、鑑賞が苦手な児童にも見るポイントを意識できる掲示物等の工夫が必要と感じた。

※参考資料

文部科学省 「小学校学習指導要領解説 図画工作編(平成29年告示)」平成29年7月